色紙に書く座右の銘

題字　新井　光風

「道は近きにあり、然るにこれを遠きに求む」

本山　和夫

本山　和夫（もとやま・かずお）
学校法人東京理科大学理事長。昭和43年　東京理科大学入学。47年　東京理科大学卒業、アサヒビール株式会社入社。平成18年取締役、平成21年専務取締役、平成22年同社代表取締役副社長、平成23年アサヒGHD株式会社代表取締役社長、平成25年アサヒ飲料株式会社代表取締役社長に就任。平成27年同社退任。同年9月に学校法人東京理科大学理事長に就任、現在に至る。一般社団法人ABC協会会長、日本私立大学協会副会長なども務める。

私は高校時代に剣道部に入り、受験の関係から2年と少し剣道に打ち込みました。大学では柔道部に所属して、卒業後も4、5年ほど柔道場に足繁く通い、汗を流しました。

高校入学と同時に剣道部に入部しましたが、驚いたのは、先輩方が非常に大人びて見え、イジメがあるのではないかなど、人間関係を心配しつつ練習に参加したことが思い出されます。実際には、当初恐れていたほど怖い先輩はいなかったものの、剣道の稽古は厳しく、大学時代の柔道と同様に辛かったことだけを記憶していますが、心に残ることはやはり武道を通じて、人としてのあり方を教えていただいたように思います。

勿論、当時の先輩たちが、改まって物事の道理を指導されたという大それたことはなく、また私自身も直接的な講話、もしくは何かの場面で受け止めたということはなかったものの、稽古後に、汗臭く薄暗い部室の中で行われたミーティングでの話などから感じたものでした。それは簡単に言うと、「人として名に恥じる行動をとるな」「基本を大切に綺麗な剣道をしよう」ということでした。

司馬遼太郎氏は、著書『この国のかたち』において「自分の名を汚すような恥ずかしいことはするな」「恥じる生き方をするな」と述べられていますが、自分の名、学校の名に恥じない行動という極めて単純明快な思想は、武士の生き方そのものです。

そのような経験から、生き方の基本として「名こそ惜しけれ」を念頭に日々を過ごしており、毎年、卒業式では「自らに恥じない人生を送ろう」との言葉を贈っています。

また、私は、「道は近きにあり、然るにこれを遠きに求む」を座右の銘としています。

孟子の言葉で、人の道は近くにあるのに、わざわざ遠いところに求めようとし、いたずらに理論を振りかざすことを否定したものです。物事はシンプルに考えることが一番という意味なのですが、世の中、なぜか簡単な物事を難解にするケースが多く、小難しい言葉、理論、理屈を並べて難しくしています。結果、いつの間にか当初の目的を忘れ、課題が何であったかも忘れ……結果として時間ばかりが経過することになります。

私が業務改革に取り組んでいた頃、大手のシステム会社で生産管理を担当していた柔道部の先輩に在庫管理システムの構築について相談したところ、大きなヒントを得ました。システムについて難しく考えず、コントロール可能な部分を改善しながら課題に向き合えば、自ずと解決に近づくといった極めて単純なポイントでした。

また、大学時代の指導教授は、企業の成功の秘訣は、人間や社会をどう見るかといった「人間的基盤に基づく企業観」と「科学的、原理的な常識的方法」に基づくものこそが大切で、定型的で専門的な方法や博打的な要素ではないと説かれました。

この先輩や指導教授の言葉で、頭でっかちになっていた自分が、「道は近きにあり」と力が抜け、課題解決に邁進できたことが思い出されます。

212ページに色紙プレゼントの応募要領が載っています。